

## 補助事業の事例(事業者からの報告より)

別紙3

## 機器購入費支援の事例

- 利用者をベッドから車椅子に移乗する際、今まで2～3名の職員で対応していたが、介護リフトを導入したことにより1名で対応可能となり、その分職員が他の利用者の介護に対応できることとなった。利用者の身体への負担も軽減された。
- 介護リフトを導入し、移乗介護が容易になったことで施設内の多目的スペースなどで行われる日中活動に利用者がより多くの時間参加できるようになった。
- 特殊浴槽を導入したことによって、今まで2名で行っていた入浴介助が1名でできるようになった。
- 機器の整備によって、新たに重度後遺障害者を受け入れる環境が整備された。

## 人材雇用費支援の事例

- 職員の増員によって夜間においても配置基準を上回る人員を配置し、細やかな支援を行うことができるようになった。
- 看護師を新たに配置したことで、医療的ケアや健康管理において手厚い支援ができるようになり、また、喀痰吸引の研修終了後の介護士職員のバックアップも可能となった。
- 今までは職員を各種研修に参加させる余裕がなかったが、体制を強化したことで喀痰吸引の研修や経管栄養ケアの研修などを受講させることができ、医療的ケアや重度後遺障害の方への支援を強化することができた。
- 人員の増員や喀痰吸引等研修の受講者が増えたことにより、新たに重度後遺障害者を受け入れ可能となった。

補助事業を活用した介護リフト、特殊浴槽等の機器導入や職員の増員により・・・

重度後遺障害の方を受け入れる体制の強化

受入定員の拡大

持続的・安定的な受入